



特集 患者状態適応型パス で見せる 訪問看護のプロセス

新人からエキスパートまで“誰がやっても質の高いケア”はどうすればできるのか。
本誌8月号特集に続いて、訪問看護の実践プロセスのフローチャートなど、患者状態適応型パス(PCAPS)のツールを使って、その実際に迫っていきます。
訪問看護の利用者のほとんどは、複数の疾患や合併症をもち、
住環境や家族関係といった療養環境の個別性が大きいため、
病院で使われるクリティカルパスのように疾患ごとではなく、
「退院直後」「がん末期」などの状況に応じて作成されているのが特徴です。
経験を問わず、質を維持・向上させながら、共通の方向性をもって利用者に関わって
いくための試みを示していきます。